

西光寺だより

第二五三号 令和五年 五月一日発行

■今月のカレンダー■

南無阿弥陀仏とは 言葉となった仏なのです

この言葉は、私たちにとつてどのような意味があるのでしょうか。

仏さまといえば、木像や絵像をイメージされる方も多いのではないのでしょうか。そして仏さまを拝むときには、木像や絵像に向かつて手を合わせます。そのときには、木像や絵像をご安置しているお寺の本堂や、家庭のお仏壇の前という場所が必要になります。

私たちが称える「南無阿弥陀仏」は言葉となった仏さまなのです。言葉となった仏さまは場所を選びません。どこにいても南無阿弥陀仏と称えれば、その大慈悲にふれ、包まれることができます。

私が、この「南無阿弥陀仏とは言葉となった仏さまなのです」というフレーズを初めて聞いたのは、ずいぶん前のことです。

私たちの教団は、「形ばかりの僧侶、名ばかりの門徒」から真の僧侶、門徒となろうということを目標にした門信徒会運動。「あらゆる差別や、非戦平和など社会の問題を課題」として、御同朋の社会をめざす同朋運動。

この両運動を「基幹運動」と称し推進してきました。現在はその運動の成果をふまえ「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」を推進しています。

その同朋運動の研修会において聞かせていただきました。

「南無阿弥陀仏という言葉になった仏さまから、言葉によるはたらき、つまり救いをいただいている。それなのに私たちは、言葉によつ

て人を傷つけたり、差別していることがあるのではないか。これは言葉の仏さまを裏切っていることになります」

といった内容だったと記憶しています。

それを聞いて、私はお寺の封筒の前面に「ことばのひびきは ころのひびき」という言葉を印刷しました。

また、布教使資格をいただいで、ご門徒の前でご法話をするようになったとき、言葉は正確に丁寧に使ひ、聞いてくださる方を傷つけたり、悲しませることがないようにと誓ったことが思い出されます。

しかしながら、ときとして本意が伝わらず、いやな思いをなされた方があったのも事実です。言葉の限界、表現の難しさを感じます。そのたびに後悔し反省しています。

私たち人間は、遠い昔に言葉を身につけ、言葉を駆使してお互いの意思を伝達し合ひ、コミュニケーションをはかってきました。私たちが社会生活を営んでいくためには言葉は必要不可欠なものです。

言葉で相手を褒め、たたえることによってお互いが喜びを分かち合うこともあるでしょう。しかし、その言葉が通じ合わないことからお互いが苦しむことも事実です。

同朋運動の研修会では、悲しい、苦しい思いをした方々から直接話を聞かせていただき、学び、気付いたことがたくさんありました。

ここでもう一度冒頭の言葉をいただきますと、「南無阿弥陀仏」は私たちの使っている言葉の持つ、善悪や限界を超えた仏のはたらきであります。

常に称えましょう。称えることによって、私が私という自己自身に目覚めていくことができるのではないのでしょうか。

（法語カレンダー 解説書より）

◆先月の報告◆

①四月十四日（金）西光寺本堂にて追弔会・春季永代経法要を厳修致しました。昨年度9人の講員の方がお亡くなりになり、皆さんでお仲間を偲び、阿弥陀経のお勤め・お焼香をさせて頂きました。

そして、引き続きの春季永代経法要。皆さんと一緒に正信偈のお勤めをいたしました。

その後、前回に引き続き、岡先生よりご法話をいただきました。

この度は永代経のご縁でありましたので、永代経の意味、そして「聞法メモ」として、資料を配って下さりそれを用いてのお話をうかがい、仏法にふれるご縁を味わう時間でありました。

ありがとうございました。



②四月二十九日（土）西光寺にて花まつりを行いました。地域の皆さまやご門徒のお子さんが西光寺に集まり、本来の四月八日とはだいぶずれましたが行うことができました。

仏教の開祖お釈迦さまの誕生を祝う仏教行事。お釈迦さまがお生まれになった時に天から清浄の水が注いだということから、皆さんで甘茶をかけ、この世で尊いのちについて教えて下さったお釈迦さまに感謝しながら手を合わせたことでもあります。その他すぐろくゲームやお絵描きなどしました。これからお寺が皆さんとのつながりになればと思うひと時でありました。ありがとうございました。

